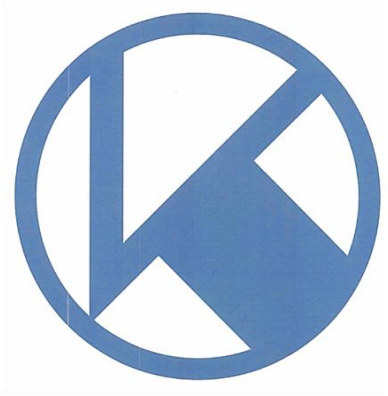
2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要



作業療法学科
4年生

学校法人こおりやま東都学園

作業療法学科　2022年度生　履修一覧

1年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤人間と生活 社会の理解	心理学	●
	法学	●
	社会福祉学	●
	統計学	●
	物理学	●
	化学	●
	保健体育	
	外国語（英語）	
	コミュニケーション論	●
人体の構造と機能　及び心身の発達	解剖学Ⅰ	●
	解剖学Ⅱ	●
	人体の構造と機能	●
	生理学Ⅰ	●
	生理学Ⅱ	●
	生理学実習	●
	運動学Ⅰ	●
	人間発達学	●
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	公衆衛生学概論	●
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	●
	看護・介護概論	
基礎作業療法学	基礎作業療法学	●
	作業療法概論	●
	作業療法演習Ⅰ	
	作業療法演習Ⅱ	
地域作業療法学	生活環境論	●
作業療法管理学	医療倫理・職業倫理	●

2年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤人間と生活　社会の理解	医療英会話	
人体の構造と機能　及び心身の発達	解剖学実習	●
	運動学Ⅱ	●
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	●
	臨床心理学	●
	内科学	●
	整形外科学	●
	神経内科学	●
	精神医学	●
	小児科学	●
	老年学	●
	薬理学	●
	内部障害学	●
	疾病と障害の成り立ち	●
基礎作業療法学	応用作業療法学	●
	作業療法演習Ⅲ	
	作業療法研究法Ⅰ	●
作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	●
	作業療法評価学Ⅱ	●
	作業療法評価学Ⅲ	●
作業療法治療学	日常生活技術論	●
地域作業療法学	レクリエーション（選択必修）	
	障害者スポーツ（選択必修）	
臨床実習	見学実習	

3年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	理学療法概論	
	言語療法概論	
基礎作業療法学	作業療法研究法Ⅱ	●
作業療法評価学	作業療法評価演習	
作業療法治療学	日常生活技術演習	●
	精神科作業療法治療学	●
	義肢・装具学	●
	高次脳機能治療学	●
	老年期作業療法学	●
	発達障害作業療法学	●
	内部障害作業療法学	●
	中枢神経系作業療法学	●
	末梢神経系作業療法学	●
	臨床作業療法学	●
地域作業療法学	地域作業療法学	●
	福祉住環境論	●
臨床実習	臨床実習Ⅰ	

4年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
基礎作業療法学	総合演習Ⅰ	●
	総合演習Ⅱ	●
作業療法管理学	作業療法管理学	●
臨床実習	在宅リハビリテーション実習	
	臨床実習Ⅱ	

1. 基礎分野

2. 専門基礎分野

3. 専門分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習Ⅰ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		内柴佑基[1),薄井俊介,羽川孝幸,薄井純子,田中絹代 1)病院(作業療法士)7年勤務			薄井(純)
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	前期	30(60)	演習・実習	2

【授業の概要・目的】

医療専門職は，対象者と関わるうえで態度，知識，技術と臨床的思考が必須となる．本講義では演習を通して前述する技能を活用し，機能障害・能力低下に対する介入技能の習得・実施することと，介入への根拠づけができることを目標である．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①作業療法実践に必要な，基礎医学・臨床医学・実地・OT専門の知識を深めることできる．	考え抜く力
②領域別の作業療法過程について理解を深め、根拠づけした説明をすることができる．	知識・理解
③評価結果をもとに，対象者に介入実施内容を説明し，介入実施を適切に行うことができる．	情報活用能力
④ガイドラインに沿った作業療法プログラムを実施することできる．	統合的学習体験
⑤介入内容や経過について，考察することができるようになる．	論理的思考力

【履修上の注意】演習が中心であり，実学としての視点や効率的な方法などをしっかり学ぶこと．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	関節可動域運動(OSCE) 薄井	関節可動域運動について理解して，実施することができる	グループ
2	関節可動域運動(OSCE) 薄井	関節可動域運動について理解して，実施することができる	グループ
3	筋力増強運動(OSCE) 羽川	筋力増強運動について理解して，実施することができる	グループ
4	筋力増強運動(OSCE) 羽川	筋力増強運動について理解して，実施することができる	グループ
5	促通手技(OSCE) 内柴	促通手技について理解して，実施することができる	グループ
6	促通手技(OSCE) 内柴	促通手技について理解して，実施することができる	グループ
7	起き上がり(OSCE) 田中	起き上がりの分析・介入について理解して，実施することができる	グループ
8	起き上がり(OSCE) 田中	起き上がりの分析・介入について理解して，実施することができる	グループ
9	起立・着座(OSCE) 羽川	起立・着座の分析・介入について理解して，実施することができる	グループ
10	起立・着座(OSCE) 羽川	起立・着座の分析・介入について理解して，実施することができる	グループ
11	移乗(OSCE) 薄井	移乗の分析・介入について理解して，実施することができる	グループ
12	移乗(OSCE) 薄井	移乗の分析・介入について理解して，実施することができる	グループ
13	歩行(OSCE) 薄井(純)	歩行の分析・介入について理解して，実施することができる	グループ
14	歩行(OSCE) 薄井(純)	歩行の分析・介入について理解して，実施することができる	グループ
15	食事(OSCE) 田中	食事の分析・介入について理解して，実施することができる	グループ

期末試験	課題による評価	評価方法	課題の達成度 80% 受講態度 20%

【教科書】	実習の要点を網羅 作業療法臨床実習のチェックポイント MEDICAL VIEW 作業療法技術ガイド根拠と臨床経験に基づいた効果的な実践のすべて 第4版（文光堂）
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊，医歯薬出版．

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	実技実習室を予約してある時間を使って，課題の予習・復習に取り組むこと

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習Ⅰ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		内柴佑基[1),薄井俊介,羽川孝幸,薄井純子,田中絹代 1)病院(作業療法士)7年勤務			薄井(純)
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	前期	30(60)	演習・実習	2

【授業の概要・目的】

医療専門職は，対象者と関わるうえで態度，知識，技術と臨床的思考が必須となる．本講義では演習を通して前述する技能を活用し，機能障害・能力低下に対する介入技能の習得・実施することと，介入への根拠づけができることを目標である．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①作業療法実践に必要な，基礎医学・臨床医学・実地・OT専門の知識を深めることできる．	考え抜く力
②領域別の作業療法過程について理解を深め、根拠づけした説明をすることができる．	知識・理解
③評価結果をもとに，対象者に介入実施内容を説明し，介入実施を適切に行うことができる．	情報活用能力
④ガイドラインに沿った作業療法プログラムを実施することできる．	統合的学習体験
⑤介入内容や経過について，考察することができるようになる．	論理的思考力

【履修上の注意】演習が中心であり，実学としての視点や効率的な方法などをしっかり学ぶこと．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	食事(OSCE) 田中	食事の分析・介入について理解して，実施することができる	グループ
2	更衣　上衣(OSCE) 田中	更衣(上衣)の分析・介入について理解して，実施することができる．	グループ
3	更衣　下衣(OSCE) 田中	更衣(下衣)の分析・介入について理解して，実施することができる．	グループ
4	対象者を捉える視点 薄井(純)	トップダウン・ボトムアップによる評価，ICFを活用した対象者の捉え方などを復習し，統合と解釈をまとめることができる．	個人
5	臨床技能・臨床思考過程① 症例:脳血管障害　薄井(純)	脳血管障害症例に対して，作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることができる．	グループ
6	臨床技能・臨床思考過程② 症例:脳血管障害　薄井(純)	脳血管障害症例に対して，作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることができる．	グループ
7	臨床技能・臨床思考過程③ 症例:脳血管障害　薄井(純)	脳血管障害症例に対して，作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることができる．	グループ
8	臨床技能・臨床思考過程④ 症例:認知症　内柴	認知症症例に対して，作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることができる．	グループ
9	臨床技能・臨床思考過程⑤ 症例:認知症　内柴	認知症症例に対して，作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることができる．	グループ
10	臨床技能・臨床思考過程⑥ 症例:認知症　内柴	認知症症例に対して，作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることができる．	グループ
11	臨床技能・臨床思考過程⑦ 症例:内部障害　薄井	内部障害の症例に対して，作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることができる．	グループ
12	臨床技能・臨床思考過程⑧ 症例:内部障害　薄井	内部障害の症例に対して，作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることができる．	グループ
13	臨床技能・臨床思考過程⑨ 症例:統合失調症　羽川	統合失調症症例に対して，作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることができる．	グループ
14	臨床技能・臨床思考過程⑩ 症例:統合失調症　羽川	統合失調症症例に対して，作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることができる．	グループ
15	臨床技能・臨床思考過程⑪ 症例:統合失調症　羽川	統合失調症症例に対して，作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることができる．	グループ
期末試験	課題による評価	評価方法	課題の達成度　80% 受講態度　20%

【教科書】	実習の要点を網羅 作業療法臨床実習のチェックポイント MEDICAL VIEW 作業療法技術ガイド根拠と臨床経験に基づいた効果的な実践のすべて 第4版（文光堂）
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊，医歯薬出版．

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	実技実習室を予約してある時間を使って，課題の予習・復習に取り組むこと		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法管理学	薄井俊介 病院（作業療法士）11年勤務	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

作業療法部門の管理・運営について理解を深め、作業療法に必要な情報・サービス・安全・業務等のマネジメント能力を身につける。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①作業療法マネジメントの資源とその特性について理解を深める。	チームで働く力
②医療チームの一員としての業務遂行に必要な能力を身につける。	知識・理解
③作業療法業務のマネジメントをPDCAサイクルに則り実行できる。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
④	情報活用能力
⑤	問題解決力

【履修上の注意】臨床実習でも必要な知識としてとらえること。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	作業療法におけるマネジメント	作業療法におけるマネジメントについて理解し、考察することができる。	個人
2	組織の成り立ちとマネジメント	「組織」と「個人」、組織の中の作業療法部門の管理等について理解する。	個人
3	情報のマネジメント	情報の種類、性質、情報を取り扱う際の注意点等について理解する。	個人
4	作業療法と医療サービス	「医療サービス」とはなにかを理解し、質の高い医療サービスを提供する手段を身につける。	個人
5	医療安全のマネジメント	リスクマネジメントについて理解し、事故報告書等の必要性と作成方法を身につける。	個人
6	作業療法業務のマネージメント① 人・物・経済性のマネージメント	作業療法部門における人材育成、環境整備、物品管理など、マネジメントの実際について理解する。	個人
7	作業療法業務のマネージメント② 情報・時間・ストレスのマネージメント	作業療法部門における人材育成、環境整備、物品管理など、マネジメントの実際について理解する。	個人
8	作業療法業務のマネージメント③ 実践からの学び	作業療法部門における人材育成、環境整備、物品管理など、マネジメントの実際について理解する。	個人
9	作業療法の役割と職域	作業療法の法的根拠、職能団体の意義、作業療法の領域について理解する。	個人
10	作業療法士の職業倫理	作業療法の倫理的態度について、事例を通して理解する。	個人
11	作業療法をとりまく諸制度①	作業療法に関連する法制度について理解する。	個人
12	作業療法をとりまく諸制度②	作業療法に関連する法制度について理解する。	個人
13	作業療法臨床実習の理解と管理体制	作業療法教育課程における臨床実習の位置づけ、到達目標について理解する。	個人
14	作業療法士のキャリア開発	作業療法士に必要な卒後教育、臨床研究やキャリア制度について理解を深める。	個人
15	まとめ	作業療法管理学についてのまとめを行なう。	個人
期末試験	課題による評価	評価方法：課題の達成度 100%	

【教科書】	作業療法管理学　第3版（医歯薬出版）
【参考書】	特に定めない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習を求める内容は都度提示する。

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
総合演習Ⅱ(1/5)	薄井　純子	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	後期	75(150)	演習・実習	5

【授業の概要・目的】

国家試験対策を小グループで行う. 国家試験合格を目的とした知識・技術の整理と学習は, 卒後の臨床にも役立つのでしっかり取り組む.

【学習目標(到達目標)】

①作業療法実践に必要な解剖学・運動学・生理学の基礎知識を活用できる.
②臨床医学の要点を整理することで作業療法実践に活用できる.
③作業療法実践に活用できる領域別の治療の知識を深め実践できる.
④
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
情報活用能力
統合的学習体験
問題解決力

【履修上の注意】グループ学習の準備や振りかえりなど自己学習も計画的に進めること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ガイダンス	小グループ方式での学習実践について説明する. 小グループで学習計画を立案する.	グループ
2	グループ学習 1:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
3	グループ学習 2:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
4	グループ学習 3:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
5	グループ学習 4:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
6	グループ学習 5:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
7	グループ学習 6:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
8	グループ学習 7:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
9	グループ学習 8:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
10	グループ学習 9:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
11	グループ学習 10:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
12	グループ学習 11:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
13	グループ学習 12:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
14	グループ学習 13:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
15	グループ学習 14:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	1～3年時に使用した教科書全般.
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊, 医歯薬出版.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ学習の振り返り

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
総合演習Ⅱ(2/5)	薄井　純子	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	後期	75(150)	演習・実習	5

【授業の概要・目的】

国家試験対策を小グループで行う. 国家試験合格を目的とした知識・技術の整理と学習は, 卒後の臨床にも役立つのでしっかり取り組む.

【学習目標(到達目標)】

①作業療法実践に必要な解剖学・運動学・生理学の基礎知識を活用できる.
②臨床医学の要点を整理することで作業療法実践に活用できる.
③作業療法実践に活用できる領域別の治療の知識を深め実践できる.
④
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
情報活用能力
統合的学習体験
問題解決力

【履修上の注意】グループ学習の準備や振りかえりなど自己学習も計画的に進めること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	グループ学習 15:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
2	グループ学習 16:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
3	グループ学習 17:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
4	グループ学習 18:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
5	グループ学習 19:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
6	グループ学習 20:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
7	グループ学習 21:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
8	グループ学習 22:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
9	グループ学習 23:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
10	グループ学習 24:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
11	グループ学習 25:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
12	グループ学習 26:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
13	グループ学習 27:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
14	グループ学習 28:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
15	グループ学習 29:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	1～3年時に使用した教科書全般.
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊, 医歯薬出版.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ学習の振り返り

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
総合演習Ⅱ(3/5)	薄井　純子	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	後期	75(150)	演習・実習	5

【授業の概要・目的】

国家試験対策を小グループで行う. 国家試験合格を目的とした知識・技術の整理と学習は, 卒後の臨床にも役立つのでしっかり取り組む.

【学習目標(到達目標)】

①作業療法実践に必要な解剖学・運動学・生理学の基礎知識を活用できる.
②臨床医学の要点を整理することで作業療法実践に活用できる.
③作業療法実践に活用できる領域別の治療の知識を深め実践できる.
④
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
情報活用能力
統合的学習体験
問題解決力

【履修上の注意】グループ学習の準備や振りかえりなど自己学習も計画的に進めること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	グループ学習 30:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
2	グループ学習 31:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
3	グループ学習 32:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
4	グループ学習 33:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
5	グループ学習 34:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
6	グループ学習 35:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
7	グループ学習 36:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
8	グループ学習 37:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
9	グループ学習 38:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
10	グループ学習 39:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する.	グループ
11	グループ学習 40:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
12	グループ学習 41:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
13	グループ学習 42:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
14	グループ学習 43:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
15	グループ学習 44:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	1～3年時に使用した教科書全般.
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊, 医歯薬出版.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ学習の振り返り

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
総合演習Ⅱ(4/5)	薄井　純子	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	後期	75(150)	演習・実習	5

【授業の概要・目的】

国家試験対策を小グループで行う. 国家試験合格を目的とした知識・技術の整理と学習は, 卒後の臨床にも役立つのでしっかり取り組む.

【学習目標(到達目標)】

①作業療法実践に必要な解剖学・運動学・生理学の基礎知識を活用できる.
②臨床医学の要点を整理することで作業療法実践に活用できる.
③作業療法実践に活用できる領域別の治療の知識を深め実践できる.
④
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
情報活用能力
統合的学習体験
問題解決力

【履修上の注意】グループ学習の準備や振りかえりなど自己学習も計画的に進めること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	グループ学習 45:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
2	グループ学習 46:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
3	グループ学習 47:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
4	グループ学習 48:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
5	グループ学習 49:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
6	グループ学習 50:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
7	グループ学習 51:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
8	グループ学習 52:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
9	グループ学習 53:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
10	グループ学習 54:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
11	グループ学習 55:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
12	グループ学習 56:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
13	グループ学習 57:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
14	グループ学習 58:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ
15	グループ学習 59:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する.	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	1～3年時に使用した教科書全般.
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊, 医歯薬出版.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ学習の振り返り

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
総合演習Ⅱ(5/5)	薄井　純子	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	後期	75(150)	演習・実習	5

【授業の概要・目的】

国家試験対策を小グループで行う. 国家試験合格を目的とした知識・技術の整理と学習は, 卒後の臨床にも役立つのでしっかり取り組む.

【学習目標(到達目標)】

①作業療法実践に必要な解剖学・運動学・生理学の基礎知識を活用できる.
②臨床医学の要点を整理することで作業療法実践に活用できる.
③作業療法実践に活用できる領域別の治療の知識を深め実践できる.
④
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
情報活用能力
統合的学習体験
問題解決力

【履修上の注意】グループ学習の準備や振りかえりなど自己学習も計画的に進めること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	グループ学習 60:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
2	グループ学習 61:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
3	グループ学習 62:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
4	グループ学習 63:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
5	グループ学習 64:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
6	グループ学習 65:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
7	グループ学習 66:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
8	グループ学習 67:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
9	グループ学習 68:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
10	グループ学習 69:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
11	グループ学習 70:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
12	グループ学習 71:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
13	グループ学習 72:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
14	グループ学習 73:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ
15	グループ学習 74:到達度確認	過去の国家試験問題10年分に取り組み, 問題の解説と回答を行う. 苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める.	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	1～3年時に使用した教科書全般.
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊, 医歯薬出版.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ学習の振り返り

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
在宅リハビリテーション実習	作業療法学科教員	薄井（純）

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	前期	（45）	実習	1

【授業の概要・目的】

通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション等、地域生活を送る対象者への作業療法実践について理解を深める。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①・在宅リハビリテーションの基礎知識の習得	チームで働く力
②・在宅リハビリテーションにおける介入方法の習得	考え抜く力
③・実践的な在宅リハビリテーションスキルの習得	統合的学習体験
④職業人として必要な社会人基礎力の習得	問題解決力
⑤	論理的思考力

【履修上の注意】CE、学内の担当教員と連絡を密に取って進める.

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	在宅リハビリテーション実習	在宅リハビリテーションの現場を通して、以下について学ぶ ・患者の状態評価とリハビリテーションプランの作成 ・患者とのコミュニケーション技術 ・在宅リハビリテーションにおける作業療法介入方法 ・在宅リハビリテーションにおける福祉用具の使用	
2	在宅リハビリテーション実習		
3	在宅リハビリテーション実習		
4	在宅リハビリテーション実習		
5	在宅リハビリテーション実習		
6	在宅リハビリテーション実習		
7	在宅リハビリテーション実習		
8	在宅リハビリテーション実習		
9	在宅リハビリテーション実習		
10	在宅リハビリテーション実習		
11	在宅リハビリテーション実習		
12	在宅リハビリテーション実習		
13	在宅リハビリテーション実習		
14	在宅リハビリテーション実習		
15	在宅リハビリテーション実習		
期末試験	課題による評価	評価方法　課題の達成度　100%	

【教科書】	1～3年時に使用した教科書全般
【参考書】	1～3年時に使用した教科書全般

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】実習記録や症例のまとめなど

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	メール連絡　ot-department@k-tohto.ac.jp

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床実習Ⅱ	作業療法学科教員	薄井（純）

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	通年	（720）	実習	16

【授業の概要・目的】

学内で学んだ基礎医学分野・臨床医学分野・専門分野の知識・技術を総合的に活用し，対象者を理解するために臨床の場面で体験・実践する.

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①実習先で正統的周辺参加し、チームの一員として作業療法実践の一部を担える。	チームで働く力
②体験した作業療法実践内容を記録し、臨床的思考過程をCEと共有できる。	考え抜く力
③事前学習した基礎医学・臨床医学・作業療法実践の知識を活用できる。	統合的学習体験
④職業人として必要な社会人基礎力を高めることができる。	問題解決力
⑤	論理的思考力

【履修上の注意】CE、学内の担当教員と連絡を密に取って進める.

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1w	臨床実習Ⅱ　1期	CEと共に、様々な事例について評価および基本的な治療プログラムを立案、実施する。 記録や報告、統合と解釈、事例報告書の作成を通して、CEの臨床的思考を共有し深める。	
2w	臨床実習Ⅱ　1期		
3w	臨床実習Ⅱ　1期		
4w	臨床実習Ⅱ　1期		
5w	臨床実習Ⅱ　1期		
6w	臨床実習Ⅱ　1期		
7w	臨床実習Ⅱ　1期		
8w	臨床実習Ⅱ　1期		
9w	臨床実習Ⅱ　2期		
10w	臨床実習Ⅱ　2期		
11w	臨床実習Ⅱ　2期		
12w	臨床実習Ⅱ　2期		
13w	臨床実習Ⅱ　2期		
14w	臨床実習Ⅱ　2期		
15w	臨床実習Ⅱ　2期		
16w	臨床実習Ⅱ　2期		

評価方法			
筆記試験	10%	OSCE	20%
発表会の結果	20%	実習評価	50%

【教科書】	1～3年時に使用した教科書全般
【参考書】	1～3年時に使用した教科書全般

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】実習記録や症例のまとめなど

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	メール連絡	ot-department@k-tohto.ac.jp